

蕪崎市行政改革大綱及び人材育成基本方針改訂に伴う職員アンケート結果

1 目的

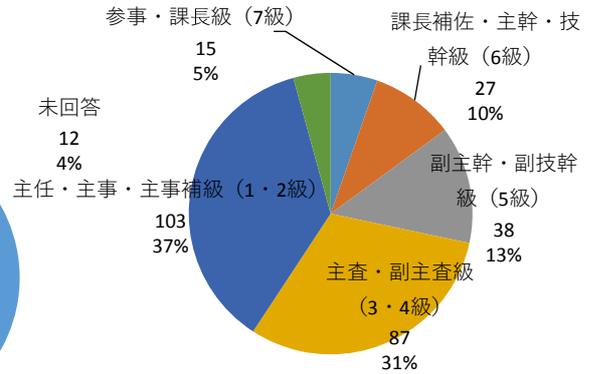
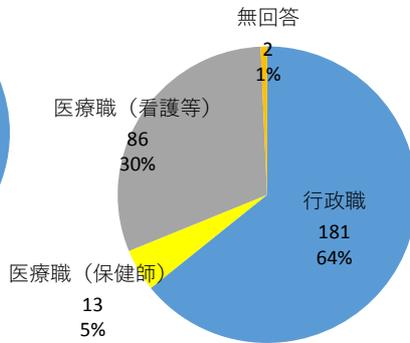
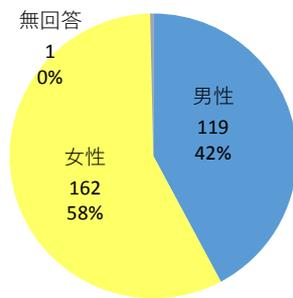
職員が日頃考えている業務内容への提案、また、人事行政への意見等を伺い、「蕪崎市行政改革大綱」及び「蕪崎市人材基本育成方針」を改訂するうえでの参考とすることを目的に実施しました。

2 調査内容

(1) 調査時期 平成30年8月20日(月)～9月7日(金)

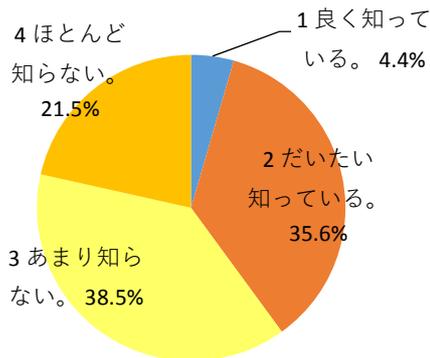
(2) 回答数 全職員(医師・非常勤・臨時職員は除く。)

- ・対象者数 328
- ・回答者数 282
- ・回答率 86.0%



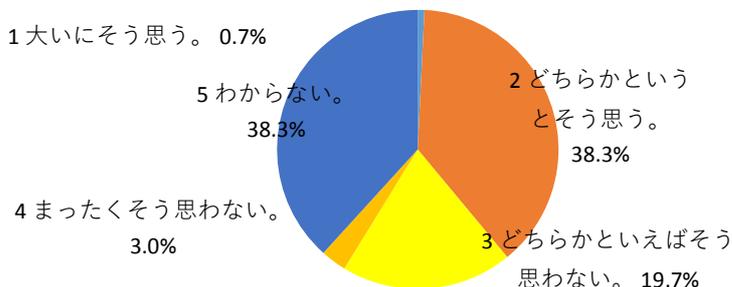
○ 行政改革等

問1 あなたは、担当する業務が現在の「行政改革実施計画」の改革項目に関連するかどうか知っていますか。



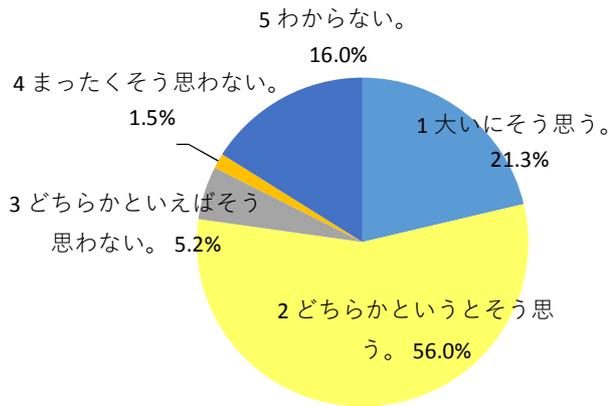
約6割が、「3あまり知らない」「4ほとんど知らない」と回答があり、特に役職が低いほど高い傾向がみられ、「主任・主事級(1.2級)」では、約8割を占めた。

問2 あなたは、現在の「行政改革実施計画」が成果をあげられていると思いますか。



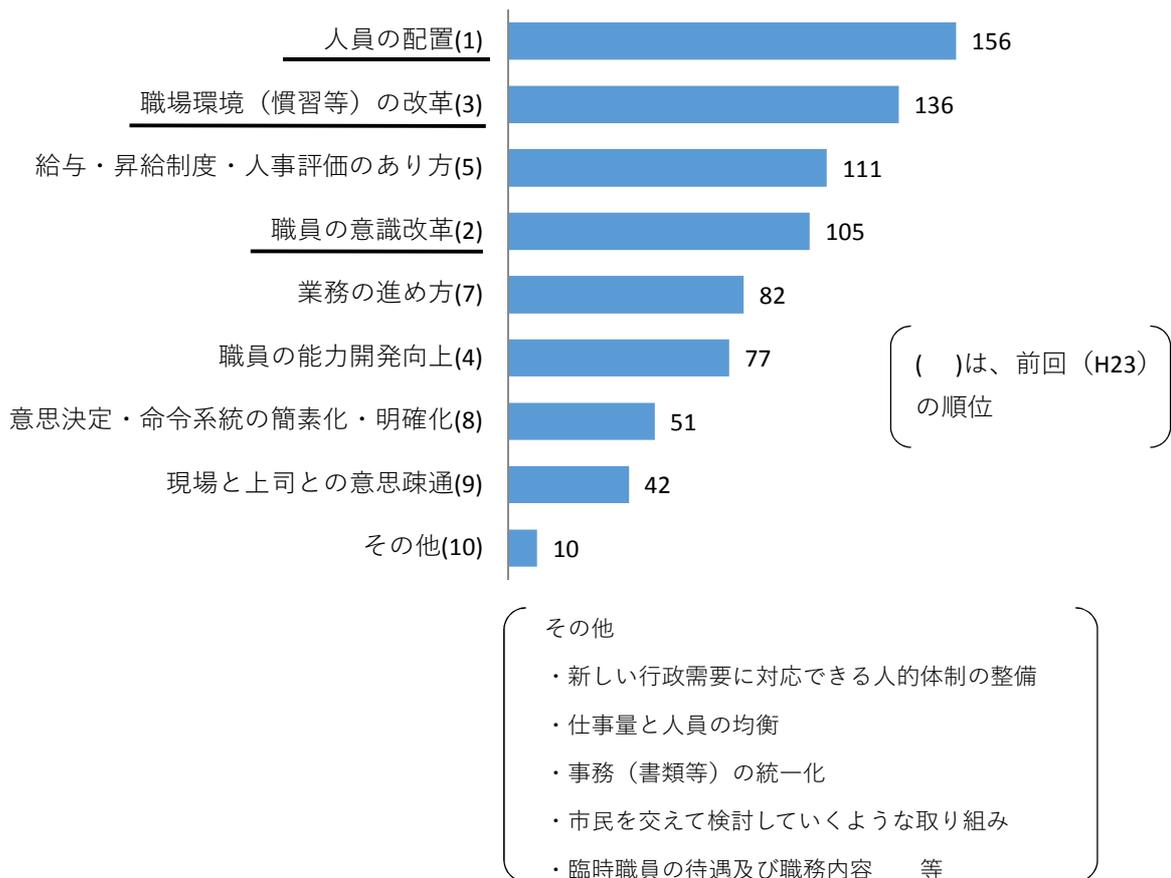
役職が上がるにつれ「2そう思う」の割合が高く、役職が低いほど「5わからない」の割合が高い傾向がみられた。

問3 今後も、市は行政改革の取組みについて、今まで以上に力をいれて実施していくべきと考えますか。



約8割の方が、「1大いに思う。」「2どちらかというと思う」と回答であり、すべての役職で傾向は同じであった。

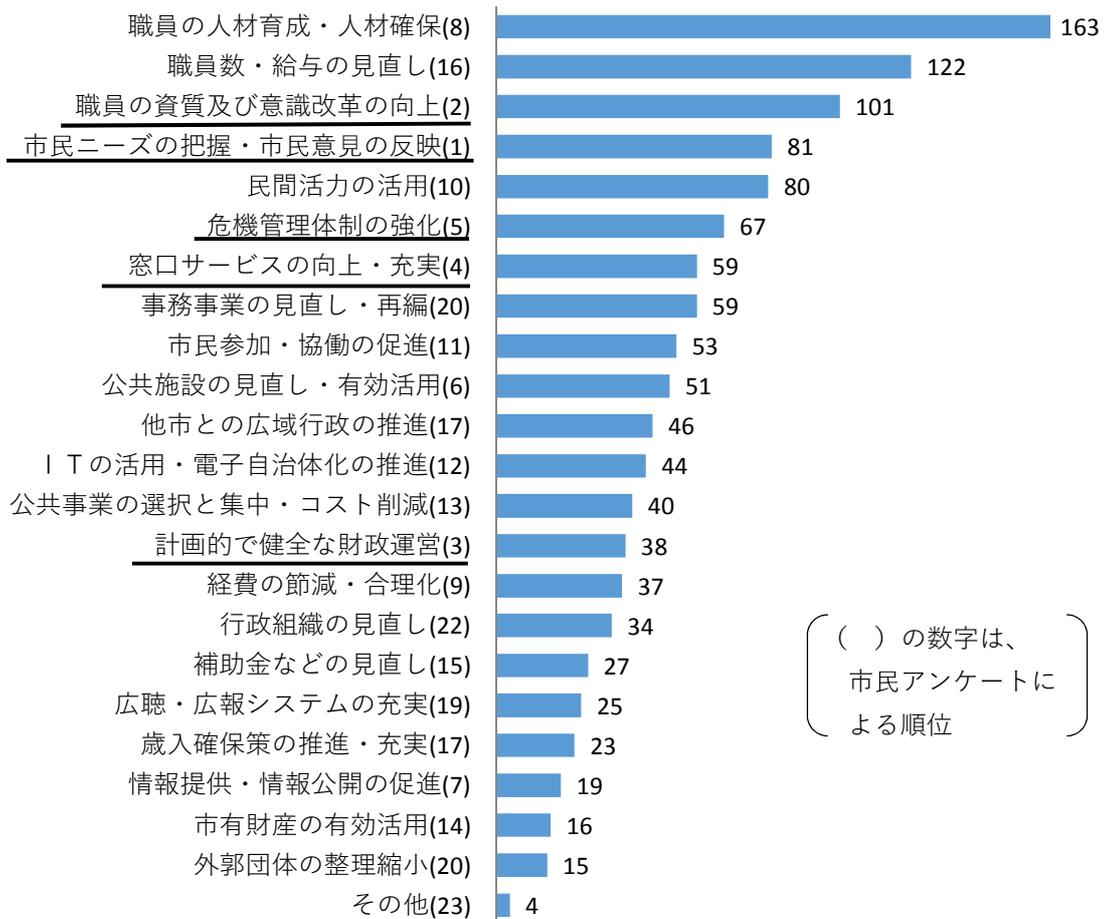
問4 あなたの職場等において、改革の取組みが必要と思うものを次の中から3つ以内で選択してください。(3つ以内)



前回(H23)と比べ、人事評価制度の本格実施等に伴う影響によるものが「給与・昇給制度、人事評価のあり方」の回答が多くなった。

なお、管理職においては、「職員の意識改革」、「職員の能力向上」が上位を占め、それ以外の役職では、「職場環境(慣習等)の改革」、「人員の配置」が上位を占めた。

問5 今後、どのような項目に重点を置いた行政改革を実施すべきとお考えですか。
(5つ以内)



() の数字は、
市民アンケートに
よる順位

その他

- ・少子化対策や企業、学校、宿舎などの誘致
- ・不要な財産の売却、公用車の集中管理等
- ・他市の常識や業務水準の把握
- ・職員数の増加

「職員の人材育成・人材確保」については、すべての役職で順位が1位であった。「職員数・給与の見直し」については、役職が低い程、順位が高く、「民間活力の活用」については、管理職において多くの回答があった。

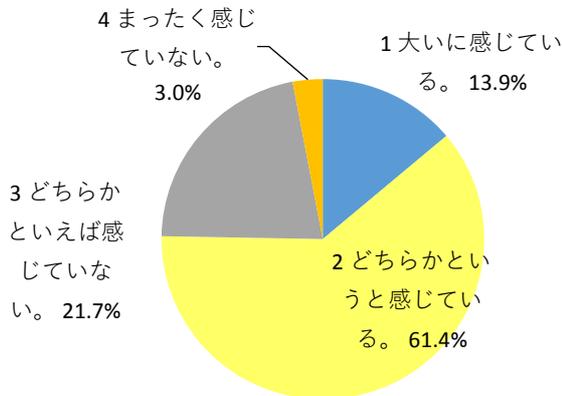
なお、前回（H23）のアンケート調査においても、「市民ニーズの把握」、「市民と行政との役割分担」、「適切な人事システムの構築」、「質の高い行政サービスの提供」、「企業民間団体との共同推進や事業委託」、「使命感と能力が高い人材の育成」といった回答が上位を占めており、今回も傾向はほぼ変わりはなかった。

職員における行政改革の認識については、役職が低いほどあまり知られていないといった傾向であった。

今後においても、行政改革の取り組みを、今まで以上に力をいれていく必要があり、優秀な人材を確保し、職員の資質向上や意識改革といった人材育成に重点をおいて進めていくことが重要だと回答から伺えた。

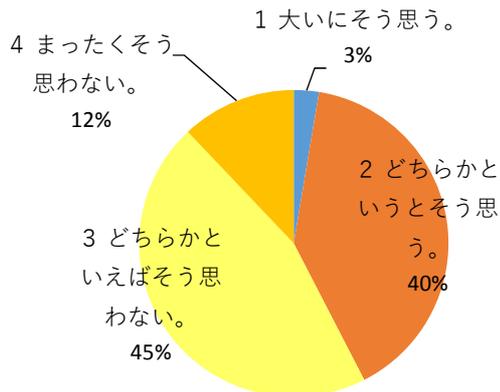
○ 人材育成・職場風土等

問6 あなたは、市職員としての仕事にやりがいを感じていますか。



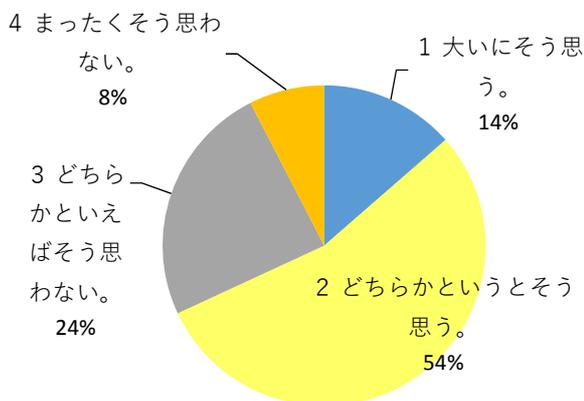
「参事・課長級」については、約3割の方が「1大いに感じている。」との回答であった。

問7 市では人材育成への組織的・計画的な取組みがなされていると思いますか。



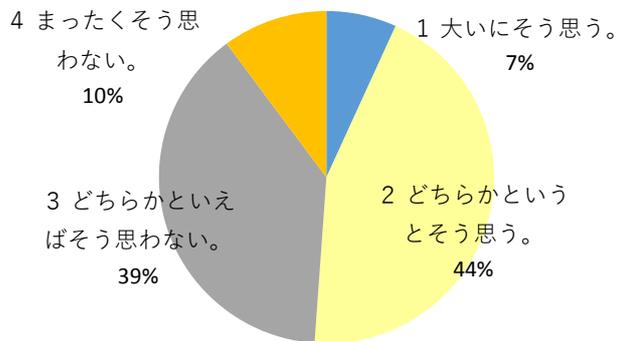
ほぼ5割が、「3どちらかと思う」と思わない」、「4まったく思わない」との回答であったが、管理職においては、約8割を占めた。

問8 あなたの職場には部下や後輩を指導育成する風土があると思いますか。



「主事・主任級」については、約8割の方が「1大いにそう思う」、「どちらかというと思う」と回答であり、役職が上がるにつれ「そうは思わない」との回答が多かった。

問9 市の研修制度は充実していると思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。



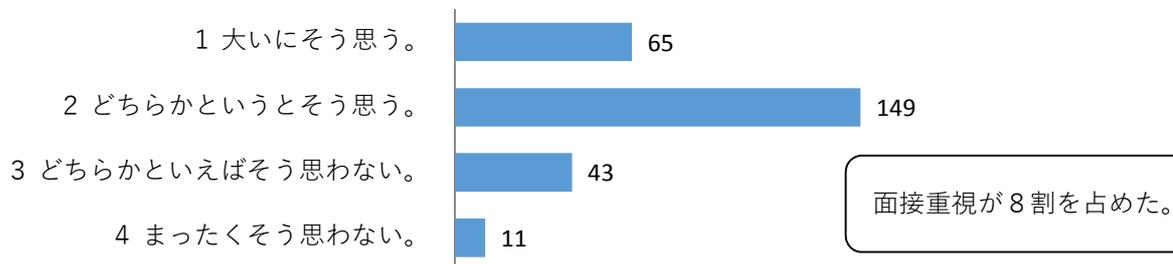
役職が上がるにつれ「そうは思わ
ない」（参事・課長級では、8割）との回
答が多くなった。

仕事に対するやりがいは、75%が感じているとの回答であった。

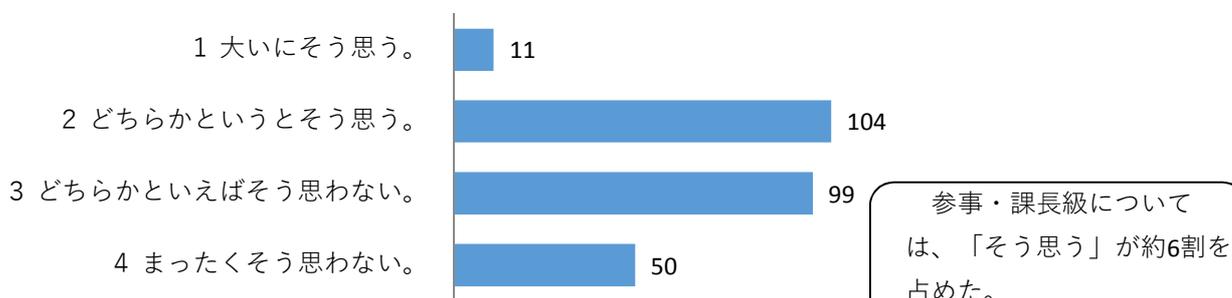
ただ、人材育成への組織的・計画的な取り組みについては、「されていない」との回答が多く、また、指導育成する風土については約3割が、研修制度の充実については、約4割が「そうとは思わない」と回答があった。今後、研修をはじめとする計画的な人材育成について、どのように取り組んでいくかが課題である。

○ 採用・人事・処遇等

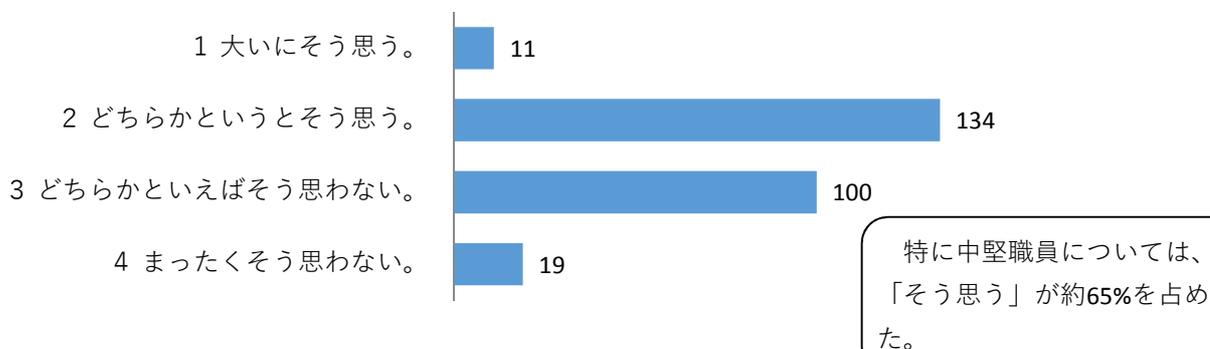
問10 職員採用試験は、筆記よりも面接を重視したほうがよいと思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。



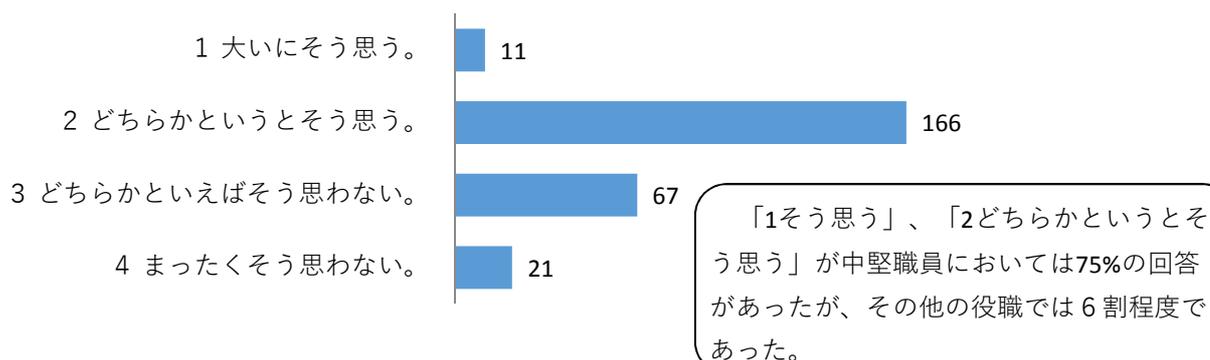
問11 人事異動は、あなたの希望どおりに行われていると思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。



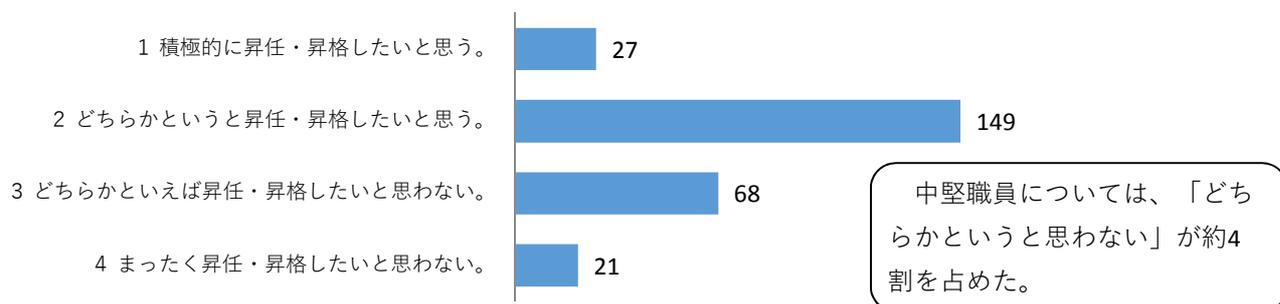
問12 若手職員の異動が能力開発や視野拡大のため適切に行われていると思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。



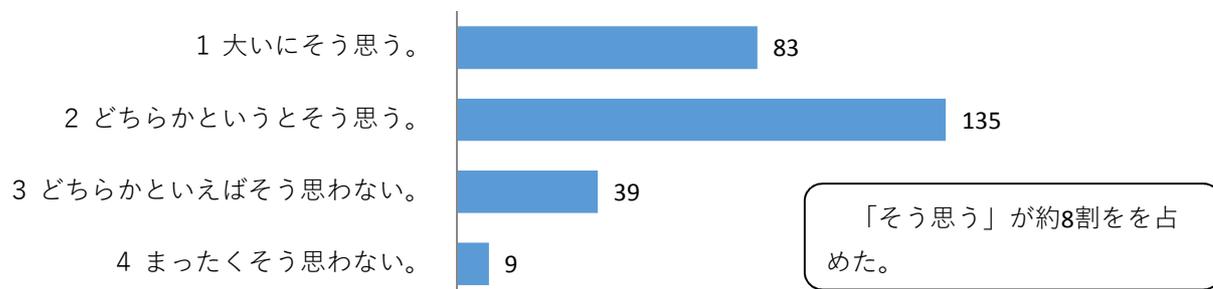
問13 リーダー以上の配置が適材適所に行われていると思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。



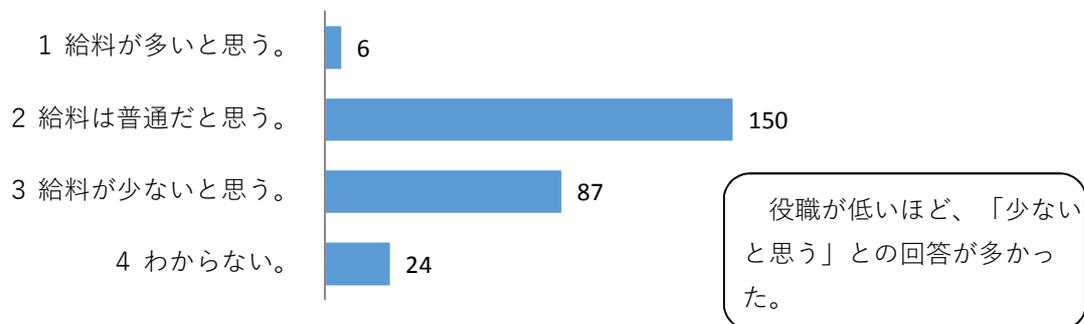
問14 自身の昇任・昇格についてどのように考えていますか。あてはまるものを1つ選択してください。



問15 あなたは、年功序列の昇任ではなく、有能な職員や実績のある職員を昇任させることも必要と考えますか。あてはまるものを1つ選択してください。



問16 現在支給されている給料は、自分の能力・職務に見合ったものと思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。



職員採用試験については、「面接」による「人物重視」がよいとの回答が8割を占めた。

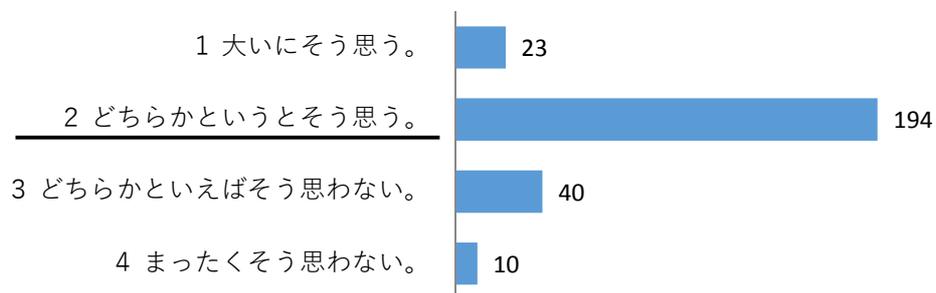
また、人事異動については、毎年「希望と意見」を提出してもらっているが、「希望どおり」であったかについては、ほぼ半分であったが、リーダー以上の配置については、約7割が適材適所であると回答があった。

昇任については、年功序列でなく、有能で実績のある職員であるべきと考えていて、自身の昇任昇格についても、約7割が意欲的である。

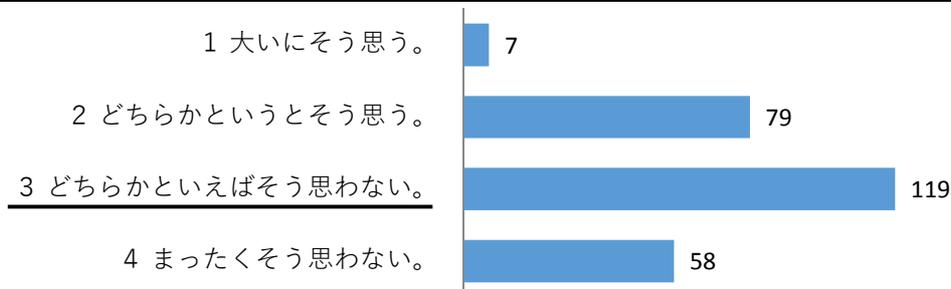
採用段階をはじめ、その後における適材適所の人員配置、また、職員のモチベーションアップについての取り組みが今後不可欠となる。

○ 人事評価制度

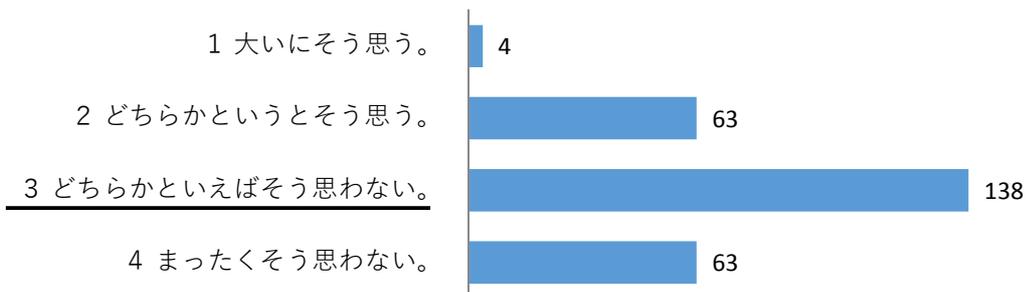
問17 人事評価において、あなたは上司から適切な評価を受けていると思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。



問18 人事評価制度が人材育成に資していると思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。



問19 人事評価制度が職場の活性化に資していると思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。



本市においては、平成29年度から人事評価制度が本格導入となり、まだ制度運用が浸透されていない状況である。

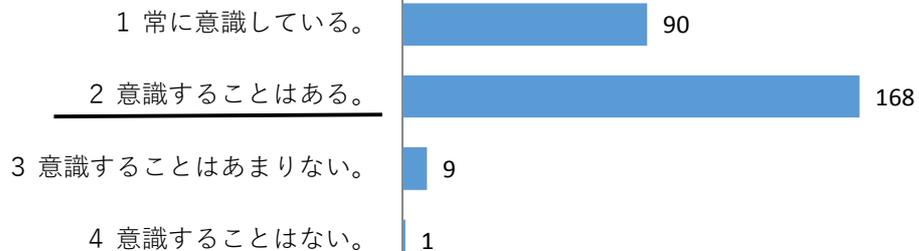
人事評価制度において人材育成や組織の活性化といった目的もあることから、今後、検証を重ねていく中で評価制度を確立し、本市にあった人事評価を活かした人材育成に取り組んでいくかが、今後の課題である。

○ 仕事に対する姿勢・コスト意識等

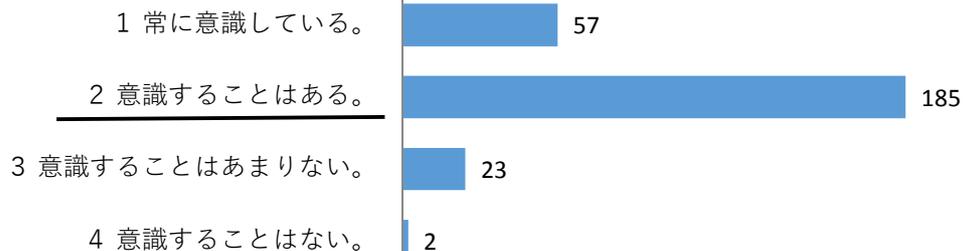
問20 業務改善に対するあなた自身の取組みを振り返り、あてはまるものを1つ選択してください。



問21 コスト削減や効率性の向上に関する意識について、あなた自身にあてはまるものを1つ選択してください。



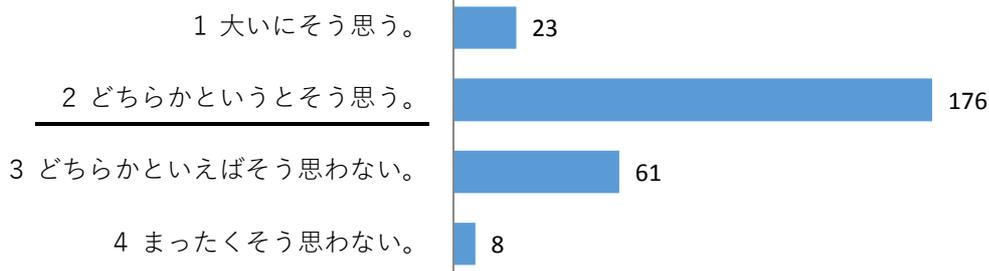
問22 業務目標や成果（業務を実施することにより得られる成果）に関する意識について、あなた自身にあてはまるものを1つ選択してください。



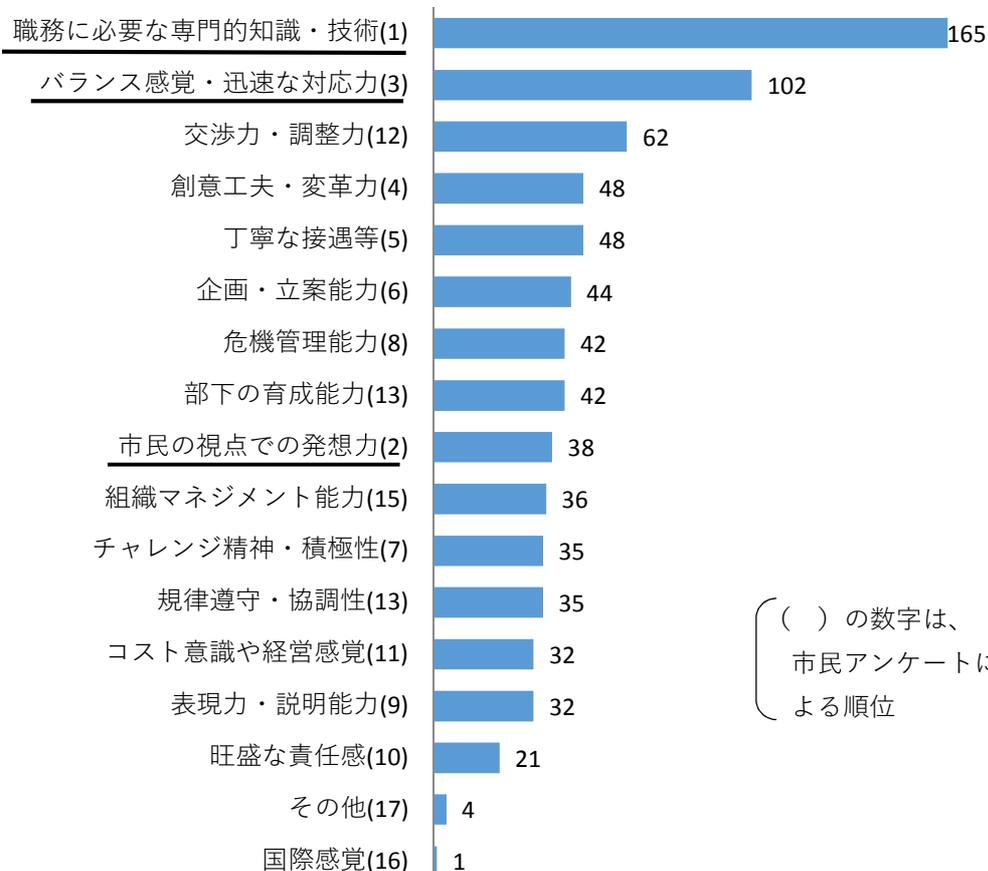
問23 あなたは、日々の業務において、短期・中長期的の目標をたてて計画的に仕事をしていますか。あてはまるものを1つ選択してください。



問24 あなたの職場全体の業務の進行管理は、うまく行われていると思いますか。あてはまるものを1つ選択してください。



問25 市職員が備えるべき能力や姿勢で、求めるものは何ですか。重要と思われる項目を3つ以内で選択してください。



() の数字は、
市民アンケートに
よる順位

仕事に対しては、業務改善、コストや効率性について、多くの職員が意識して取り組んでいることがわかった。また、日々の業務においては、目標を立てているが計画的に進まないことが多いとの回答が多かった。

市職員が備える能力や姿勢については、「専門的知識や技術」の習得は重要であると多くの回答があった。職務を遂行していく上で、基本中の基本となるもので、改めてその大切さを感じていると伺えた。続いて、「バランス感覚・迅速な対応」や「創意工夫、変革力」との回答が多かった。

また、今回項目を変更しており、必ずしも比較はできないが、前回(H23)のアンケートでは、「的確な判断能力」、「コミュニケーション能力」、「問題発見・解決能力」、「正確迅速な処理能力」、「創意工夫する能力」が上位を占めた。